

一度は訪れたい 日本最北の地と花咲く北海道

この旅行のみどころ
 新緑が芽吹き美しい季節を迎える5月。花の浮島と呼ばれる礼文島ではこの島にだけ咲く「レプンツモリソウ」の群生地を訪れます※①。最北の羅島や宗谷村からの壮大な海景色や北の大地の味覚、利尻島の天然温泉など魅力満載のツアーです。

関東発着の旅行情報をいち早くお届けします!
 「Nツアー関東」のLINE@をチェック!
 LINEの友だち追加からID検索または「二次元バーコード」で登録してください @083hmtcd |  **167号**
関東版

世界で礼文島だけに自生する **レプンツモリソウ** 見学 **利尻島は温泉施設のあるお宿に** **4日間** **3泊も2〜3名様で1部屋** **羽田空港発着**

礼文島にだけ咲く **レプンツモリソウ**
 世界で礼文島だけに自生するランの一種。島の地産地消推進指定されています。例年5月中旬から6月上旬に開花し、5月下旬から6月上旬に閉花します。令和5年度は5月21日〜6月10日の間で開園されました。※①



春の利尻島・礼文島と 稚内・宗谷岬・花咲く富良野周遊



5月の稚内・利尻・礼文の気温

	稚内	利尻島・礼文島
最高平均気温(℃)	12.4℃	12.4℃
最低平均気温(℃)	6.3℃	6.1℃

稚内地方の5月は肌寒い日もありますが、清々しい気候で良きそのシャツで十分な日も多いです。また、二次元バーコードで登録された方が便利です。



春の花が咲き誇る 富良野を巡ります!!
 富良野ファーム富田
 ファーム富田はラベンダー観光地の他、5月中旬は、木々が新緑で染まれ、美しい冬を乗り越えた春の花々が鮮やかに咲き誇ります。
 (5月撮影) 富良野ファーム富田

▲礼文島より望む利尻富士
 利尻島では利尻富士を望みながら 島を一周します

旅行代金 大人お1名様、(2〜3名様で1部屋利用)、羽田空港起点 **179,800円** (税込)
 ※この旅行は、2名様以上でお申し込みください。
 ※国内線搭乗券除使用別料金別途必要になります。表面左下の旅行条件をご覧ください。

各地の味覚を 得意にしています

	1日目/昼食	3日目/昼食
特製うどんがはばはで弁当	北海道の味覚ホッケとお造り	

3日目 稚内市内 **サフィールホテル稚内** **サロベツ原野**
 稚内港に隣接している豪華シティホテルです。地元産の食材や郷土料理「箱シャブ」を含んだ和食料理

2日目 利尻島 **利尻マリンホテル** **サロベツ原野**
 利尻島沿岸正面の好立地に位置する、心地よい温泉リゾートです。
 地元食材を使用した「北海道の海の幸会席料理」をお楽しみください

1日目 旭川市内 **アートホテル旭川** **サロベツ原野**
 旭川市(大浴場)に隣接するホテルです。最上階のビュッフェレストランも好評です!!
 さ夕食は、旭川を一望するレストランで、地元新鮮野菜・北海道産の海の幸・山の幸の多彩なメニューをお楽しみください!!

コース表

コース	航空機	貸切バス	船	入場観覧	下車観光	車窓観光	食事
1	羽田空港(9:30~10:00)	→	新千歳空港	→	ラベンダー観光発祥の地、春の花咲く富良野・ファーム富田	→	波を打つように連なる広大な農場が美しい「美瑛の」ツチヤロ湖の丘 = 旭川市内ホテル(ご夕食は、北海道の味覚満載和洋バイキング) 大浴場有 早めの16:40着
2	ホテル(7:00)	→	名寄	→	ラムサール条約保護区△クツチャロ湖	→	車窓からオホツク海を望む
3	ホテル(8:00)	→	原生林帯に囲まれた神秘的な△姫沼	→	利尻島を望む	→	△オタマリ沼
4	ホテル(7:00)	→	天売島・焼尻島を車窓より眺望	→	日本海オロロンライン	→	明治路のニンシ 景観を偲ぶ

旅行条件(要約) ※詳細は旅行条件を明記した書面をお渡ししますので事前にご確認ください。お申し込み下さい。(裏面併用)
 この旅行は「和食旅館 旭川市農協観光旅行事業」599号に基づき「和食旅館」が企画・運営する旅行です。和食旅館は旭川市農協観光旅行事業の委託を受けて旅行業務を行います。

特別な配慮が必要な方は
 本旅行は、和食旅館が企画・運営する旅行です。和食旅館は旭川市農協観光旅行事業の委託を受けて旅行業務を行います。特別に配慮が必要な方は、お申し込みの際に必ずお申し付けください。

関東地区発の旅行情報を配信中!!
 旅行のお問い合わせお申込み
 株式会社農協観光光
 JA茨城つばき旅行センター
 TEL 0296-35-3538

旅行企画・実施
 観光庁登録旅行業務取扱管理者 佐藤 隆
 株式会社農協観光
 商品企画センター
 岡山市北区商店街9-18 岡山県農業会館6F
 総合旅行業務取扱管理者 小菅 保樹 室井 薫